

No.1906

3月16日例会 プログラム 「薬の話」 富永 護君

3月23日例会 プログラム 「メタボリック シンドローム」 玉野市民病院院長 三島 康男様

3月16日のメニュー 「幕の内弁当」・ちらし寿司・照り焼き魚・マグロの山かけ・かき揚げ天ぷら・フルーツ・お味噌汁・コーヒー

前回（3月9日）例会記録

出席報告	会員総数	38名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	24名	欠席者数	12名	出席率	66.67%	前回補正率	-
	前回補正者	-								
	欠席者	藤原君 藤田君 花岡君 東川君 井上君 松玉君 仲田君 中山君 大久保君 白石君 谷口君 山田(次)君								

来訪者 難波 加恵様 (GSE 派遣メンバー)

会長挨拶

こんにちは。例会出席ありがとうございます。お客様の紹介を致します。GSE 派遣メンバーの難波 加恵様です。ようこそいらっしゃいました。今日はロータリーの事から少し離れた話を致します。プロ野球もオープン戦が行われ、皆様ひいきのチームの勝負が気にかかることと思います。また大リーグは井川、松坂両投手のピッチングが気になり、朝のスポーツニュースが待ち遠しいところです。春の高校野球は、岡山県から関西高校が出場しますが、他の高校球児の生活はどうなっているかという、3月10日が対外試合の解禁日です。3月のスケジュールは残り20日ですが、試合が13日生まれ、中にはダブルヘッダーもあり、プロ野球のオープン戦ぐらいのスケジュールで毎日過ごしています。そして地区大会、県大会、優勝、夏の甲子園全国大会というスケジュールです。以上高校野球のお話でした。

ビジター挨拶 難波 加恵様 (GSE 派遣メンバー)

1月末に第2回目のオリエンテーションに参加し、今はリーフレット、パワーポイントの作成にかかっています。本日はGSE 派遣チームのプレザーを皆様にご覧いただきたいと思って着て参りました。早いもので出発まであと1ヶ月になりました。また皆様にご報告できるようたくさんのことを勉強してきたいと思ひます。



会長報告

- ・ 退会者2名の後任委員長として、職業奉仕委員長は緋田さん、新世代活動委員長は三宅(照)さんをお願いしましたので皆様に報告いたします。

幹事報告

- ・ 「宇野港の桜公園・桜並木」植樹を3月11日(日)10:15から行いますのでロータリージャンパー着用にてご参加下さい。
- ・ 玉野市ボーイスカウト育成会より、平成18年度参与会費納入に対するお礼状が届いております。
- ・ (社)岡山県聴覚障害者福祉協会玉野支部及び玉野手話サークルより、定期総会の案内が届いております。
- ・ NPO ワークグループより、「肝臓移植手術を待つ幼児の命を救う基金」への協力要請が届いております。
- ・ 環境絵本「地球の秘密」と「環境日めくりカレンダー地球の秘密」購入の案内が届いております。理事会で協議の予定。
- ・ 他クラブの週報・例会変更通知は回覧いたします。

3月2日理事役員会議事録

- ・ 欠員の委員長人事について 了承。職業奉仕委員長：緋田会員、新世代活動委員長：三宅(照)会員
- ・ 「ほほえみマリン大使選考に伴う協賛」について 了承。
- ・ 改訂版「ロータリー情報マニュアル」購入について 10部購入することに決定。
- ・ ロータリークレジットカード加入促進について。 再度、加入者数の調査を行う。

スマイル・ボックス

- ・ 小野田君 - 素敵な難波さん、ようこそ。食事の時にゆっくり話をしたかった。

- ・島田君 - GSE の難波 加恵様、良くいらっしやいました。
- ・富永君 - 素敵な難波様、ようこそいらっしやいました。
- ・宮本君 - 入会させていただきます。よろしくお願い致します。 前回、初の例会で道に迷い遅刻してしまいました。お恥ずかしい限りです。
- ・三宅(保)君 - 宮本さん、入会おめでとう。
- ・小野君 - 宮本忠幸さんを歓迎して。
- ・緋田君 - 宮本さんの入会を歓迎して。 本日卓話をさせていただきます。
- ・石川君 - 商工会議所女性会 20 周年、皆様にはお世話になりました。
- ・林君 - 白馬にスキーに行きました。その際、福森様に大変お世話になりました。 スキー場で福森さんに蹴飛ばされ、まだ背中が痛みます。
- ・福森君 - 結婚月。 前回欠席。
- ・三宅(照)君 - 早退。

プログラム 「葉隠れとは」 緋田 秀雄君

葉隠は佐賀鍋島藩の山本常朝が語ったものを中心として、それを田代陣基が編集したものとされている。

序文としての総論「夜陰の閑談」の中で、奉公人は熱しやすく冷めやすい、三日坊主のように心掛けを忘れることがよくある。従って最初の決心を忘れさせぬよう次の四つの誓願を守ることが肝要と説く。現代に当てはめても充分納得の行く内容である。

人に遅れをとらぬこと。

主人のお役に立つこと。

親に孝行すること。

大慈悲心をおこし人のためになること。

「武士道とは、死ぬことと見つけたり」という言葉で知られているのが『葉隠』である。しかし死ぬことと見つけたりという言葉は即、死に直結ということではないと説きます。封建制度のもとにおける主君と家臣の間における忠義とは、主君の欲するままに自分を処すること、すなわち自分の血をもって主君の英知と良心に最後の訴えをする。その上で主君の決定に対しては一切異議なしという立場をとる。毎日々々を死に直面し、今で言う死に物狂いになれば何事かなせる筈である、そして生きていればこそご奉公が出来ると考えるわけです。これが死即生であり、葉隠の説く「死」とは逆説的に「生」ということにもなります。毎日々々の強い思いが積み重なり、その人の一生となる。これこそ葉隠の極意のような気がします。つまり、家臣が主君と意見を異にすると家臣のとるべき忠義は、「あらゆる手段を尽くしてその非を正すことである。もしこれがうまく行かない時は、主君の欲するままに自分を処置させるというのである。こうして武士道が自分の血をもって我が言葉の誠実さを示し、主君の英知と良心に最後の訴えをする・・・これこそが“死ぬことと見つけたり”の意。」

次に赤穂浪士の討ち入りについても述べています。仇討ちの行為それ自体は林羅山の考えの如く「忠義である」と見ます。しかし、根本的に仇討ちというものは成功させようと思って緻密な計画を立ててやるような行動ではない。武士としてはことの成否は別として、仇討ちは即実施するのが本道である。問題は事の結果にあるのではなく、行為自体に意味がある。浅野内匠頭の切腹から 1 年半以上後の仇討ちでは遅すぎる。常朝の云う仇討ちとはすぐにその場に駆けつけて、たとえ敵が何千人いようと斬って斬って斬りまくり、運がなければ死ぬまで、知恵もなにもいらない、一筋に死にもの狂いになって突き進むのみ、これが仇討ちの義である。さらに浪士達は仇討ちの成就を泉岳寺墓前へ報告後、なぜ直ちに切腹しなかったのかとも言う。

『葉隠』が人気を得続けているのは、その内容の具体性にある。武士の心がけ、生き方を実際の例で語りかけてくれる。新渡戸の『武士道』が“理論武装”の本であるとする、『葉隠』は“日々の教え”の書のようなものである。

最後に『葉隠』から、ためになる名言をいくつか紹介し終わりにします。

- ・大事な思案は軽くすべし、小事の思案は重くすべし。
- ・とかく武士はしほれたり、くたびれたりした様子は見せてはいけない。
- ・大きな困難に出会ったら、おおいに喜び勇んで進め。
- ・強い思いが一つずつ重なって一生となる。